

# 令和7年度第1回秋田県バリアフリー社会形成審議会

## 議事録（要旨）

### 1 日 時

令和7年11月4日（火）午後3時から午後4時まで

### 2 場 所

秋田県教育会館 3階会議室

### 3 出席者

#### （1）委員（50音順、敬称略）

小野地紀子 一般社団法人 秋田建築士会女性委員会 委員  
門脇 隆幸 秋田県中央交通 株式会社 営業部次長  
小森 一昭 公益社団法人 全国脊髄損傷者連合会秋田県支部 支部長  
下河 良 株式会社秋田温泉さとみ 代表取締役社長  
須田 真史 公立大学法人 秋田県立大学システム科学技術学部  
建築環境システム学科 教授  
星野 昇平 特定非営利活動法人 セカンドライフステージりんどう 理事長  
安田 大樹 社会福祉法人 秋田県社会福祉協議会 総務企画部副部長  
山下 浩司 秋田市都市整備部 部長

※13名中8名出席

#### （参考）欠席委員（50音順、敬称略）

浅野 雅彦 秋田県商工会議所連合会 事務局長  
植田 雅人 秋田県小学校長会 秋田市立牛島小学校 校長  
小野崎一哉 公益財団法人 秋田県老人クラブ連合会 会長  
工藤 康憲 一般社団法人 秋田県ハイヤー協会 副会長  
菅原 香織 特定非営利活動法人 秋田バリアフリーネットワーク 理事長

## (2) 県庁各課

広報広聴課、交通政策課、地域・家庭福祉課、長寿社会課、建築政策課、教育庁（総務課施設整備室、特別支援教育課）、警察本部（警務課、会計課、交通企画課、交通規制課）

## (3) 事務局

障害福祉課長、調整・障害福祉チーム員

### 4 開会、課長あいさつ

### 5 議 事（◆：委員の意見、質疑等 ◇：事務局及び県庁各課からの回答等）

#### （1）令和7年度バリアフリー関連事業について

①数値目標の実績値について

##### ◆ 下河 委員

昨年度開催された審議会の資料と見比べたところ、障害者雇用の促進の項目で、数値目標に対する実績値が前回より増えている箇所があるが、増えた要因と、なぜ間違っていたか理由を聞きたい。

##### ◇ 事務局

数値目標の数値や達成率は各課に照会をしているが、雇用労働政策課から回答をもらった際に、過年度の実績値の修正があった。本日、雇用労働政策課が欠席しているため、一旦持ち帰らせていただき、確認の上で回答させていただきたい。

##### ◆ 小野地 委員

バリアフリー適合証の交付が伸びない理由として何が考えられるか。

##### ◇ 事務局

建物の着工数自体が減っていることが一つ。また、その建物が適合していても、申請が任意であるため、申請しないケースもある。事業者にとっても、適合証をもらうことのメリットを感じられていない部分もあるのではないかと考えている。

##### ◆ 小野地 委員

適合証の申請をするために、新たな作業が必要になるということはあるか。

##### ◇ 事務局

申請の手間が大幅に増えるということはない。

◆ 小野地 委員

「適合しているものは必ず適合証を取得するように。」という仕組みになれば、実績率も上がるのではないか。

◆ 山下 委員（秋田市都市整備部 部長）

民間に建築確認申請を出す場合でも、バリアフリーの協議書は市に申請が出されるが、その時点ですでに建築計画が固まっている。例えば、通路の幅を広げることで基準に達するといったことを民間の方にお伝えするが、そこから改めて、計画を直して適合証を取るというところまではいかない。

適合証を表示して「この建物はバリアフリーに配慮している。」ということをアピールできる利点があると思うが、事業者がそのメリットを感じていないという実情がある。

◆ 須田 会長

年度別目標数値を社会的背景に鑑みて見直していくという説明があったが、この表の令和7年の目標数字はもう数字が入っている。令和8年の目標を見直すということか。

◇ 事務局

次期計画以降の数字を見直すということである。

(1) 令和7年度バリアフリー関連事業について

②概要・進捗状況について

◆ 小森 委員

障害者用駐車区画の利用証について、「車いす用」と「その他の障害者用」があるが、車いすを使っていない障害者が、車いす用の利用証を使用している行為が見られる。交付の際に、その点をしっかり確認して交付していただきたいと思う。

◇ 事務局

車いす用かそれ以外のマークなのか、発行する時にしっかり確認していきたい。

◆ 須田 会長

前年度から新たに加わったものや、我々が改めて確認しておくべきことがあるか。

◇ 事務局

施設整備の大館警察署改築区事業と、雇用労働政策課の障害者の労働参加促進事業

の2件を新規事業としてご報告いただいている。

◆ 星野 委員

福祉教育副読本の改訂版を作成すると書いてあるが、どういった点が変わらるのか教えていただきたい。

◇ 事務局

持ち帰って後日回答とさせていただきたい。

◆ 下河 委員

エスコートゾーン整備は、昨年度の資料に、令和6年10月までに整備済みと書いてあるが、これはその後もやるということか。

◇ 警察本部交通規制課

令和6年度中にキャッスルホテル前の交差点に2本整備している。今年度は、秋田駅東口NHK前の交差点に1本整備している。除雪による傷みも激しく、メンテナンスの必要もあることから、エスコートゾーンを広げていくかどうかは今後検討していく必要がある。

(2) 令和7年度秋田県バリアフリー推進賞について

◆ 須田 会長

バリアフリー推進賞の選考委員は、昨年と同じメンバーに引き続きお願ひしたいとのことだが、継続の二人の委員から辞退があった場合は、今日欠席している委員にも就任の意向を伺ってはどうか。

◇ 事務局

そのようにする。

(3) 第5次バリアフリー計画（素案）について

◆ 安田 委員

次期計画について、社会情勢の変化を踏まえて見直すということだが、現時点で社会情勢の変化というのはどのようなことを指しているのか。見直すとすれば、どのような点を見直すのか、具体的なイメージがあつたら聞かせてほしい。

◇ 事務局

人口減少や、公共施設の統廃合による集約化が進んでいる中にあって、財源の状況等も踏まえ、すべての建物のバリアフリー化率を上げていくというのは難しい状況にある。こうした傾向を見定めながら、現実的な目標値にしていくというところが一点。

また、災害時などに、障害者が情報へのアクセスが制限される課題に対して、新しいアプリやソフトといったICT技術を活用してリアルタイムで情報が得られるような仕組みも出てきているため、こうしたものを新規施策に取り入れていきたい。

◆ 星野 委員

障害者の就労支援に関して、優先調達の実績が最下位レベルであるということが昨年12月の県議会でも話題になり、障害者の経済的自立の妨げになっているのではないか。こうした中で、調達件数の掘り起こしといったものを、社会のバリア解消に盛り込んでいただきたい。

◇ 事務局

優先調達を担当している当課のチームに伝え、どういった形で反映できるか、検討させていただきたい。

◆ 小森 委員

県有施設のバリアフリー化率が記載されているが、県のスポーツ科学センターに行きたいと思っても、スロープが整備されていないで行けないことがある。

新県立体育館が建設される際には、その中に含まれるようだが、完成までまだ時間がかかるので、その前に仮設のスロープ等でも設置していただければありがたいと思っている。

自分は障害者団体の代表も務めており、そこからの意見だが、外出時、福祉タクシーや介護タクシーを利用する際に、日曜祭日は休み又は運転手がないなどの理由で断られることがある。各業者から新型車両のPRや利用推進の案内が来るが、いざ利用したいときに利用できないため、ハイヤー協会等を通じて、なるべく利用できるようなご指導をしていただきたい。

◇ 事務局

今すぐ何ができるという回答はできないので、今日回答できなかった部分も含めて、後ほどフィードバックをさせていただきたい。

6 閉会